學藝

令和５年（2023年）８月／第148号

― 特集：総会・講演会 ―

令和５年度総会

講演「学校教育における学際的な学びの実現へ向けて
～『うけとめる力』を育むために～」
講師　東京学芸大学准教授　小林 晋平　先生

◇ 巻 頭 言　理事長に就任して思うこと……理 事 長　森　富子… 2
絆の力……副理事長　茅原　直樹… 3
ご挨拶と昨今の教育と同窓会雑感……副理事長　小川　優… 3
◇ 記念講演　「学校教育における学際的な学びの実現へ向けて～『うけとめる力』を育むために～」（前編）
……東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座 物理科学分野 准教授 小林 晋平　先生… 4
◇ 総会資料……要項、令和５年度事業計画・収支予算書、令和４年度事業報告・収支決算書…… 8
◇ 令和５年度 理事・部員・監事等名簿 ……14
◇ 令和５年度　支部長名簿……16
◇ 附属学校研究案内……17
◇ 本部だより……総務部・会計部・研修部・調査部・広報部・お知らせ…18
◇ 総会写真（会長挨拶・副学長挨拶・来賓紹介・理事紹介　他）……20

一般社団法人　東京学芸大学同窓会

理事長に就任して思うこと

理事長　森　富子

令和五年六月四日の総会で、東京学芸大学同窓会理事長に再任されました森　富子です。大変ありがたいことで、恐縮に思っております。同じく選任された理事、監事の皆様とともに、今までの長い歴史を受け継いでこられました顧問、参与の皆様とご相談しながら、しっかりとやっていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

私が再任されたのにはいくつか理由があるのですが、今回は三つのことをお話したいと思います。

第一は、同窓会の事業をコロナ禍の前の様な活動に戻すことです。新型コロナウイルス感染症は、令和五年五月をもって感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上の五類感染症に移行され、マスクも強制ではなくなりました。各支部からも総会や研究会、懇親会が開かれる話が聞こえてきました。すでに実施された支部もあり、私も副理事長も参加した支部会もあります。同窓会の研修部も昨年度から対面の研修になりました。この研修会では、同窓会の先生方だけではなくどなたでも参加できます。どうぞ、多くの方々に声をかけていただきたいと思います。さらに一番の目標は一月の新年祝賀会の開催です。今年の一月には感染対策を立てて、久しぶりに顔を合わせての新年会が開催できました。顔を合わせての懇親会は、やはりいいものだと実感しました。今年度はぜひ規模を拡大しての開催にしたいと思います。総会後の懇親会も復活していきたいと思います。

第二は、今まである同窓会の財産への対応です。同窓会には、皆様の会費で賄うお財布と今まで先輩方から受けついでいるお財布の二つの財産があります。二つ目の財産は、師範学校時代から受け継がれている財産であり、現在の同窓会が使えるものではなく、大学等への寄附か講演会などの公的なものでしか使うことができません。一般社団法人として運営していくためには、その受け継がれている財産の活用をこの二、三年で完了させなければならないことが判明しました。そこで、母校である東京学芸大学に寄附するのが一番良いのではないかと今までの理事長の皆様と相談して期限内に処置をすることにしました。そこで、ちょうど今年度、東京学芸大学が師範学校時代から数えて、創基一五〇周年の年であり、「東京学芸大学創基一五〇周年記念基金」の寄附金を募っていることに注視しました。今までも同窓会では、図書館に障碍者でも使える机の寄贈など、毎年東京学芸大学に寄附を行なってはいましたが、今年はこの記念すべき年に今まで以上の金額を寄附しようと考えました。詳しい金額等につきましては、いつもお世話になっている会計士の先生や、今までの経緯をご存知の元理事長や参与、監事の皆様にご相談申し上げて決めていきます。詳しいことが決まり次第、同窓会の皆様にもお知らせしてまいります。

第三は、現在の東京都の教員不足についての同窓会の役割です。私は現在、週一日だけ学生の教員就職相談、教員採用試験の対策のための指導を行っています。この頃の東京学芸大学の学生たちと接することができるのはとてもありがたいことだと思っています。しかし、東京都の教員不足につきましては、深刻な状態になっています。そこに少しでも同窓会や終身会員の皆様にご協力をいただき、東京都の教育向上に貢献したいと思います。現在の東京学芸大学の学生たちも、教員を目指して、一生懸命に学んでいます。力量があり、自信もあり自覚もあります。この東京学芸大学の学生たちがさらに本気になって教員を目指せば、東京の教育や日本の教育がもっと変わるのではないかと思うくらいの迫力を感じています。同窓会としての工夫を探ってまいります。

同窓会の皆様もどうぞ機会がありましたら、現在の東京学芸大学へ足を向けていただければと思います。新しい時代の教育について、少しでもお役に立つことができる同窓会でありますように、しっかりと努力して参ります。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

絆の力

副理事長　茅　原　直　樹

二〇二三年の本年、母校は、創基百五十周年の大きな節目の年を迎えています。

同窓会といたしましても、この記念すべき節目の年に教員不足の東京、いや日本の学校教育を救う「人財」である後輩の学生の皆さんをさらに支援していきたいと考えています。

さて、全く個人的な話なのですが、一九八三年に母校を卒業してすぐに教職に就いた私は、今年が教職四十周年です。ただそれだけのことなのですが、節目の年が同じということで、なんだか母校学芸大学が一層身近に感じられてうれしくなってきました。卒業後すぐに中学校の教員となった私も、今では還暦も過ぎ、「暫定再任用」という一年契約選手の三年目となりました。そう言えば、昭和三十五（一九六〇）年生まれの私が、仮にこのまま六十五歳まで教職を継続するとすれば、実に昭和一〇〇（二〇二五）年まで教員を続けることになります。

昭和一〇〇年…。明治一〇〇年と盛んに言われたのが昭和四十二（一九六八）年。私は、当時小学校二年生でしたが、中村草田男の「降る雪や明治は遠くなりにけり」の句の「明治は遠くなりにけり」だけはよく覚えています。この句を思い出すと、明治どころか昭和も本当に遠くなってしまったのだなあ、昭和世代はすっかり古くなってしまったなあ、と思っていたのですが、さにあらず。

本年六月八日、わが江戸川支部では久しぶりの懇親会を催しました。

当日は、森理事長にもお越しいただき、令和二年一月二十一日の支部新春懇親会以来の楽しい集いとなりました。

そこには、江戸川支部創設者でいらっしゃるY先生の凛としたお姿もありました。Y先生は、我が学芸大学第一期生で、私の丁度三十歳年長の昭和五（一九三〇）年のお生まれでいらっしゃいます。

先生は、前回の新春懇親会の折、自作の詩を通じて「同窓の絆・名誉・誇り」についてお話になりました。私にとって先生のそのお話は、その後のコロナ禍を乗り切る力となりました。

「絆とは、糸に半分。人間はどんなに頑張ったって半人前にしかなれません。ですから、残り半分は絆の力に頼らざるを得ないのです。夫婦の絆、仲間の絆、そして同窓の絆。学芸大学同窓会には、同窓の強い絆があります。この力を信じて進みましょう。」

今回、三年半分の感謝を直接お伝えできたことが何よりでした。

やっぱり同窓会は楽しいものです。

ご挨拶と昨今の教育と同窓会雑感

副理事長　小　川　　優

この度、副理事長の職を拝命いたしました小川優（おがわまさる）と申します。本同窓会では「管理職等名簿」を作成する調査部長を担当しておりました。微力ながら、歴史ある同窓会の発展のために力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、都の小学校代表校長会に出席したところ、今教育現場の大きな問題は教員の人材不足だ、という声が多く聞かれました。教員配置に欠員が出て、人を探してもその人材がいないこと。新規採用教員が配置されたが、力量に課題があり、退職したり、指導に多くの労力がかかったりすること等々。これは、もはや義務教育制度の根幹に関わる大問題であると発言された方もいました。令和六年度の教員採用選考の小学校全科の倍率は一．八倍と低迷を続けており、一般的に優秀な人材を確保するための倍率は三倍以上が必要と言われているそうです。唯一の朗報は、産育休代替臨時教員の四ヶ月前倒し採用の情報でした。引継時間も取れます。

私も現在、小学校の現場にいて、まさにその通りだなあと頭を抱えると同時に、学芸大学同窓会として、今まで以上に学芸大学の学生の皆さんに教師の仕事の魅力を発信して、研修等の指導や支援を強めていく必要性を感じました。

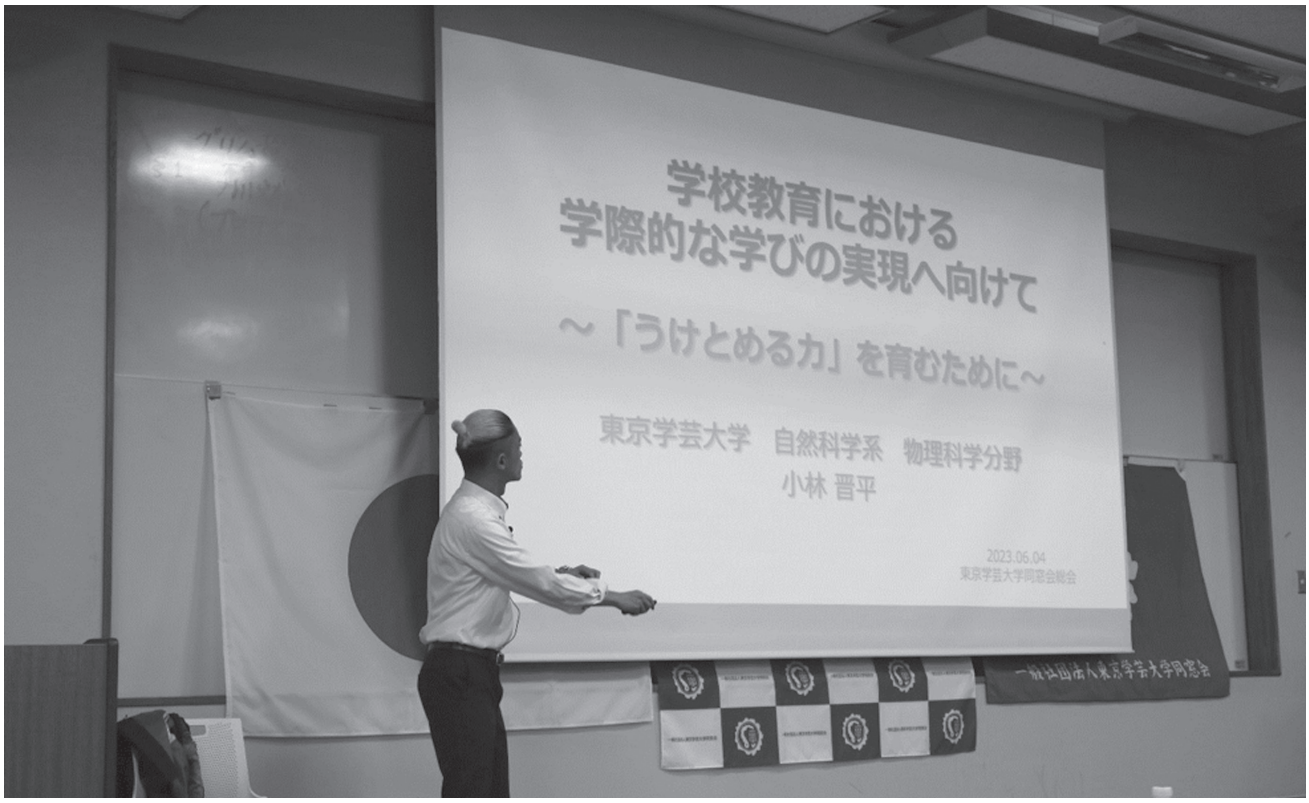
さて、先日六月の「総会」や理事会での森理事長の報告、提案にもありますが、現在、一般社団法人　東京学芸大学同窓会が抱える役割や課題は少なくないと思います。例えば、同窓会は「一般社団法人」という法人組織の枠組みの中で事業を行ないます。つまり、「公益事業」と「共益事業」の二つを通して予算を執行管理し、毎年、監督組織である東京都に報告が求められます。現実的には、令和八年三月までに、同窓会の財産をゼロにしていくという課題もあります。学芸大学は今年度、創基百五十周年を迎えるので、大学への寄附も予定されています。

令和五年度の同窓会には様々な事業計画があります。研究研修活動、出版活動、ホームページ運営、関係団体への連携事業等々、その活動は多岐に渡ります。同窓会内部の運営システムも改革が進んできています。同窓会会員の皆様と課題意識を共有し、連携・協力して新しい時代の希望ある同窓会を力強く作り上げて参りたいと思います。

記　念　講　演

「学校教育における学際的な学びの実現へ向けて ～『うけとめる力』を育むために～」（前編）

講師：東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座
物理科学分野 准教授　小林 晋平　先生



〔　講師紹介　〕

東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座
物理科学分野 准教授　小林 晋平　先生

1974年長野県長野市生まれ。理論物理学者。専門は宇宙物理学・素粒子物理学。

現在，東京学芸大学教育学部准教授（自然科学系 基礎科学講座 物理科学分野所属）。理科教員高度支援センター、教育インキュベーションセンター、先端教育人材育成推進機構（兼任）。慶應義塾大学自然科学研究教育センター協力研究員。京都大学理学部卒。京都大学大学院人間･環境学研究科博士課程修了。博士（人間・環境学）。東京大学ビッグバン宇宙国際研究センター研究員，日本学術振興会海外特別研究員（カナダ・ウォータールー大学，ペリメーター理論物理学研究所），国立群馬工業高等専門学校准教授を経て，現職。（小林晋平先生HPから）

自己紹介

東京学芸大学物理科学分野で研究をしております小林晋平と申します。よろしくお願いします。私は教員免許をもっていません。教育に関して素人ではないかと学生に思われるのが嫌で、一年生対象の入門セミナーでは「私は今まで、高専で七年間教壇に立っていたことや、学生時代に九年間予備校や塾で講師をしていたことも合わせ、単純に計算しても三万コマくらい授業をやっている」という話をしています。今回は、現場経験がたくさんおありの方ばかりなので、そのような前置きは言わず、現場で感じていることをストレートにお話させていただきます。

様々な活動について

私の研究テーマはブラックホールとか宇宙の始まりなどで、数学と物理学との境界領域的な研究をしています。そのほかにいろいろなところで一般向けの講演などをさせていただいています。

たとえば大人の科学バーというサイエンスイベントがあります。お酒を飲みながら科学の話を聞くというイベントで、私も講師の一人を務めていますが、たいへんに盛り上がる会で、皆さん酔っているからか、ひたすら質問が出てきます。

Eテレの番組で司会を務めるなど、テレビにも出ています。ユーチューブもやっています。ユーチューブでは、「二十四時間ではしりぬける物理」という企画をコロナが始まってすぐの休校期間に行いました。実は私は生の熱量に敵うものはないとオンラインに反対していました。ところが、あのような状況になって、何かできないかと思ってやりました。対面と動画の授業では熱量が違いますが、イベントとしてパッケージを工夫すれば盛り上がるのではないかと考え、「高校物理全範囲を二十四時間ぶっ続けで講義します」と提案し、ユーチューブでそれを生配信しました。この配信は全国で二万人くらいが視聴してくれました。四百人くらいがリアルタイムで付き合ってくれました。クラブでイベントもやっています。これにもいろいろな人たちが集まって、盛り上がります。

幾多の活動へ取り組む理由

なぜこのようなことやっているのかというと、物理教育の現状が関係しています。高校では突出して物理基礎が嫌われており、私はその物理を教えているわけですが、学生からは「物理は苦手だったけれど、物理のイメージが変わりました。」などよい評価をもらっています。クラブとか、二十四時間ぶっ続けとか、パフォーマンス的な授業をやっているからだと思われがちなのですが、私の授業は至ってオーソドックスな物理学です。では、なぜそんな高評価をもらっているのでしょうか。

教育とのかかわり

私は群馬高専にいたときに、ベストティーチャーを六年連続受賞させていただきました。高専生にはエンジニアを目指している学生が多くいます。工学系なので物理は必要ですが、理論物理とか数学とかが好きというほどではありません。そこでどうやったら物理を伝えられるだろうかと考えました。

大学の学部と大学院のころは、塾や予備校の教師などいろいろなアルバイトをしましたが、プロとして初めて高専で教壇に立ったとき、こんなに一生懸命学ばせる必要があるのだろうかということに悩みました。ひょっとしたらもっと手っ取り早く「うまく」やっていく方法を教えた方が彼らにとっては幸せなのではないかと思ったのです。自分自身も学位を取って研究者になるまでに、ものすごく苦労しました。自分のように学問や研究が好きな人間でもたいへんな苦労をします。それに対する見返りがどれだけあるのかを考えました。医学部専門の予備校で教えていたこともあります。家が医者なので絶対継いでもらわないといけない、金に糸目はつけない、だから何とかしてくださいという子どもを多く見てきました。そういう世の中を見ることでも、勉強って何だろうと悩ました。

しかし、一年目に東京で開催された高専教員の新人研修での話し合いの中で、企業出身の先生の「学生時代にその他大勢だった学生は社会に出てもその他大勢です」という言葉を聞いた時に、やはり勉強をさせようと思いました。自分の学生をその他大勢にさせないためにどういうことができるかを考えました。

物理はにくまれ役？

入門セミナーで物理についてどういう印象をもっているかと聞くと、物理教室の学生は「自然が動くのが面白い」「公式を組み合わせたら解けるのが楽しい」などと答えてくれます。化学教室の学生には「面白いところもあるし、実験も面白いけど数式は嫌い」と言われました。生物学教室では「むしろ何が面白いか教えてほしい」と言われました。ある年の地学教室では、「先生の性格が悪かった」とその人の個人的な思い出を語った学生もいました。確かに物理好きな人は、数式の書いてあるTシャツとか作ってしまいます。では、物理は特殊な訓練を積んだ人にしか楽しめないかというと、物理に限らず、あらゆる学問は専門家だけのものではありません。私たちを真の意味で豊かにするものです。

方法の学問としての物理学

私は信州大学教育学部附属長野小学校・長野中学校の出身で、総合型教育にずっと薫陶を受けてきました。私のクラスでは、小学校低学年で（植物の）ソバを育てることをテーマに三年間総合学習をしました。ソバを育てれば理科になることはもちろんですが、そばを擬人化して童話を作ることもやりました。さらにそこに音楽をつけてオペレッタを作りました。私はそういう教育を受けてきたことで、学問は専門家が使うだけのものではなく、人生をいかに豊かにするものであるかということを味わわせてもらいました。そして、自分が教えてもらったこの教育をもっと掘り下げていかなければならないと強く感じるようになりました。

何を以て観るか

私が専門とする物理は、何がやりたいのかよく分からないと言われる科目です。それもそのはずです。物理学は、数学や生物、化学や天文学といった他の学問分野とは異なり、特に対象とするものを限定していません。どのようなものであっても、物理学の方法を使ったら、それは物理になるのです。

例えば、自分の手の写真が三枚あるとします。一枚は普通の手の写真です。X線で撮った写真が二枚目です。三枚目はサーモグラフィーに映った手の画像です。この三枚で、どれがあなたの手ですかと聞かれたら、どう答えますか。どれも自分の手の写真ですね。何を見たいかによって見え方が違うだけのことです。物理とは本来こういうものです。物理学とは「何を以て何を観るか」であり、「あなたが何を見たいと思っているか」、すなわち観察者の主観を大切にするものなのです。

このことを私が重要視するようになったきっかけのひとつに、長谷川等伯の松林図屏風があります。あの絵を見たとき、このような絵が世の中に存在するのかと衝撃を受けました。もう一つ衝撃を受けたのが、宮本武蔵の書いた「戦気」という字です。本当に強い人が書いた字だと思いました。私たちは学校での学びの中で、「客観」とでも呼ぶべきものを追求して、それを理解することが「正しい」と教わります。「客観的」と言われる何らかの知見を理解したら確かにうれしいと感じます。理解しなければ人はあまり感動しません。しかし、先ほどの絵や字は、そういうものを突き抜けています。芸術とは主観を追求したものです。自分の世界を追求しただけなのに、それを他人が見て、すごいと感じてしまうのです。そもそも物理学の本質が「何を以て何を観るか」である以上、もっと主観を追求していい学問であるはずです。であればその先にも、他者の共感を呼ぶものがあるはずです。それを追求することが許されていない現状を変えていかなければいけないと強く思っています。

「次世代型教育」への不信感

京都大学の二人の先生が日本の教育はダメではないことを書いた優れた本があります（小松・ラプリー共著『日本の教育はダメじゃない』）。データを用いて日本の教育は世界の中でかなり優れていることを実証している本です。

「これからは正解のない時代になる」とよく言われます。そうやって不安を煽り、従来の日本型教育が批判されることはしょっちゅうです。では、逆に正解があった時代はいつですか。そのような時代はありません。どの時代の人だって正解など分からないまま生きてきました。それに条件や枠を設定すれば最適解はあります。「正解がいつも存在しない」というのは間違った思い込みです。

実際に、日本型の教育は海外で高く評価されていて、成功もしています。特に授業研究などは高く評価されています。ところがなぜか日本では授業研究の機会を減らすような方向に進んでいます。教員があまりにも忙しく、そうしたことに時間を割けなくなっているのは由々しき問題です。授業研究において、現場の人間が集まって自由闊達に言い合うやり方は大学での自主ゼミに似ています。学生時代、教わるのではなく自分たち仲間同士で集まって、みんなで開いた勉強会が一番身につきました。その意味でも同様の授業研究は非常に良いスタイルです。

外圧～聞くべき言葉と聞き流していい言葉～

昨年の五月に経産省から「未来人材ビジョン」というものが出されました。これから育てたい人材を提案したものです。経産省は、今の日本の現状を知ってもらい、もう少し頑張ってもらうおうと出したのですが、実はこれを見た多くの人が凹んでしまいました。いかに日本が世界の中では儲からない国になってしまっているのかという事実をデータで出したからです。

経産省はこうなった原因の一つが日本の理系教育に問題があると言います。というのも、OECDの中で数学的リテラシーや科学的リテラシーは、日本はかなり上位に来ています。ところが、数学や理科を使うことが含まれる職業に就きたい生徒の割合が圧倒的に低いのです。その理由を探究的な理科学習が少ないからではないかと言うのです。では、彼らが言う探究は何かというと、スタートアップなど企業でやっているようなことです。それは「イノベー

ション」という言葉を借りた近視眼的な「問題解決能力の育成」であり、要は次世代の若者と教育への責任転嫁です。教育は今ここに生きている大人がやらなければいけないことであるにも関わらず、こういうことを言うのです。

教育への責任転嫁は個人のレベルでも同じで、自分の今の人生の原因は学校教育にある、若い頃もっと勉強しておけばよかったと言う大人はたくさんいます。そこで、「あなたは昨日何冊本を読みましたか」と質問すると、「一冊も読んでいない」という答えがほとんどの場合返ってきます。つまり過去の教育に原因などないのです。それは教員をやっている人ならよく分かります。要は今やっているかどうかです。すべてはそこなのに、人というのは、どうしても理由を過去に求めます。そうすると教育が良くなれば良くなるのではないかとなり、教育に責任が押し付けられてくるのです。しかも、教育にはすべての人が関わったことがあるわけです。全員が教育には一家言があるのです。このように教育は悪者にさせられやすいのですが、このことも改めていかないといけません。

私は教員の仕事とは「遠足の引率」のようなものではないかと思います。遠足の引率をするときは、毎年、同じ場所に行っているにもかかわらず、毎年下見に行きます。毎年来ているから何の発見もないかというとそのようなことはなく、様々な発見があります。私たち教員は毎年同じようなことを教え、同じようなカリキュラムに沿って生徒や児童を育てるわけですが、毎回必ず何らかの発見があるわけです。

これは修学旅行にも似ています。中学三年生で奈良や京都に連れていってもらった時は、すごいなとはなかなか思えません。でも、大人になってから行ってみると、このようなものを奈良時代に作ったのかと思うわけです。大仏って、これだけ大きいものを作るのにどれだけの人間が関わって、どれほどの国家事業だったのだろうかと考えるわけです。子供たちと同じ方を向きながら、実は多数の発見をして学びを深めているという意味で、教員の仕事は「遠足の引率」に似ており、そして非常に探究的なのだと思います。そこの部分が理解されていないと思っています。理解されていないと、私たちの仕事は死んだ学問を伝えればいいという話になりかねなくなります。そうなるとチャットGPTがあれば済んでしまう話になってしまうのです。当然そうではありません。

確かに耳を貸すべき点もあるが

ただ、教育界の方にも弱みがあります。例えば、教科書です。だいぶ変わりました。理科だと実験の項目がすごく増えました。増えたのですが、極めてマニュアル的です。例えば、小学校五年生で学ぶ振り子の等時性の実験です。振り子を小さく振ったら、振り子の振れ角や、つけているおもりの重さにかかわらず周期は一定ということを確かめる実験です。角度が小さければ周期が一定になるので、十度、二十度、三十度に限る必要はないです。この数字に特別な意味はありません。でも、深く知らない人からしてみたら、これが大事だと思って厳密にこれとこれでやりかねないわけです。きちんと勉強していないと探究的な学習はできないのです。

出し抜く世界『華氏四百五十一度』

レイ・ブラッドベリの『華氏四百五十一度』という本があります。華氏四百五十一度は摂氏二百三十三度で、紙が自然発火する温度だと言われています。近未来に人々が知識をもつことを恐れた政府が本を持たせないために本を全部燃やしてしまうという内容です。権力による強制統治のように思われがちな内容ですが、作者が言いたかったことは、反知性主義の究極というディストピアです。人間が知識をもたない世界、見て考えなくなった世界ではどうなっていくのかというと、人々はみんなダイジェストとか、要約とか、あとは画像や映像、スピード、レース、そういうものにのめり込んでいきます。やることをやらないで、探究的なことをしないで、見せかけの知識だけを集めることを教育でやっていたら、何のために学んでいるのかが分からなくなってしまいます。そうすると人間は驚くほど最適化能力が高いので、そういう社会の中で手っ取り早く生きていくための方法を考えます。何も考えなくても理解もしなくていい、分かればいい、使えればいいという人間たちが集まってのなれの果てがこの本の結末です。こういう社会に行きかねないところまで、実はもう来ているのです。現に、ユーチューブには、大量のまとめサイトがあります。いくらでもダイジェストがあります。授業なんかいらない、動画でいい、授業はただの情報提供だからと思っている大学生もたくさんいます。大学生が思っているのなら、やがて高校生、中学生、最後には小学生と、順番に行くでしょう。そういう世界が実際に待っているのです。

（一四九号に続く）

【お詫びとご案内】

内容の濃い小林晋平先生の記念講演を四ページにまとめることはどうしてもできませんでした。申し訳ありません。後半は一四九号に掲載させていただきます。お楽しみに。

令和５年度　一般社団法人　東京学芸大学同窓会　総会資料

※期　日　　令和５年６月４日（日）
　　◆受付　　１２：３０～
※時　程　　総　会　　１３：００～１４：００
　　講演会　　１４：１５～１５：１５
※会　場　　東京学芸大学　講義棟Ｓ４１０教室
※次　第

【Ⅰ】 総　会（１３：００～１４：００）

	＜司　会＞ 総務部長	青　山　直　志
１　開会の辞	副理事長	石　川　加　子
２　理事長挨拶	理 事 長	森　　富　子
３　来賓代表挨拶	東京学芸大学副学長	濱　田　豊　彦　様
４　来賓紹介	副理事長	渡　辺　裕　之
５　議事録署名人の選出		
６　議事		
＜報告事項＞		
（１）　令和５年度　事業計画	副理事長	稲　葉　孝　之
（２）　令和５年度　収支予算書	会計部員	關　口　泰　正
＜審議事項＞		
（１）　令和４年度　事業報告	副理事長	茅　原　直　樹
（２）　令和４年度　収支決算報告	会計部員	關　口　泰　正
（３）　令和４年度　監査報告	監　　事	葛　谷　裕　治
（４）　令和５年度　新理事・監事選任	監　　事	酒　井　晴　夫
（５）　その他		
＜休　　憩（５分間）＞		
７　理事会報告（新役員紹介、挨拶）	新理事長	森　　富　子
８　退任支部長への謝辞	新理事長	森　　富　子
９　閉会の辞	新副理事長	小　川　　優

【Ⅱ】 講　演　会（１４：１５～１５：１５）　　司　会：総務部長　　青　山　直　志

『　学校教育における学際的な学びの実現へ向けて　～「うけとめる力」を育むために～　』

【講師】 国立大学法人東京学芸大学
　　自然科学系　基礎自然科学講座
　　物理科学分野　准教授　　小　林　晋　平　先生

＜謝　辞＞　　森　　富　子

令和５年度　事業計画

【公益事業】

Ａ　研究・研修活動
　１　研究活動
　（１）　総会後の教育講演会
　　令和５年　６月４日（日）１４：１５開会　　東京学芸大学講義棟Ｓ４１０教室
　　演題　　『学校教育における学際的な学びの実現へ向けて～「うけとめる力」を育むために～』
　　講師　　小林　晋平　先生　（東京学芸大学自然科学系基礎自然科学講座物理科学分野准教授）
　　※YouTubeによる限定ライブ配信実施
　（２）　広報誌「學藝」による研究校紹介
　　令和５年８月　第１４８号、令和５年１２月　第１４９号、令和６年３月　第１５０号に研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載
　　教育情報が得られるよう同窓会ホームページを案内
　２　研修活動
　（１）　教育管理職等幹部教員育成研修会の開催
　　①　校長・教育管理職（Ａ・Ｂ選考）受験者の論文研修会
　　・５月１４日（日）9:00 ～ 12:30　　＜新宿区立市谷小＞　　受講者３０名見込み
　　・６月１１日（日）9:00 ～ 12:30　　＜新宿区立市谷小＞　　受講者３０名見込み
　　②　面接研修会（校長及びＡ・Ｂ選考一次合格者対象）
　　・９月１０日（日）9:00 ～ 15:00　　＜新宿区立市谷小＞　　受講者３０名見込み
　　③　主任教諭選考受験者対象研修会
　　・２月　３日（土）15:00 ～ 17:00　　＜新宿区立市谷小＞　　受講者５０名見込み

Ｂ　出版活動
　１　管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第４５集の改訂発行・頒布
　　令和６年３月予定　１０００部
　２　若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈
　　令和５年１２月予定　６００部
　　（東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用）

Ｃ　ホームページ運営
　「一般社団法人　東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

Ｄ　関係団体との連携事業
　１　国立大学法人東京学芸大学との連携
　（１）　卒業式への理事長参列
　（２）　学生後援会への資金援助（東京学芸大学基金として援助）
　（３）「教職実践演習」への講師派遣
　（４）「教師」の魅力発信プロジェクト第３弾への援助
　２　「辟雍会」との連携
　（１）　副会長、理事への就任
　（２）　理事会への出席
　（３）ホームカミングデーへの参加
　３　その他関係団体との連携
　（１）　学校法人竹早学園　竹早教員保育士養成所の入学式・卒業式への参列
　（２）　学校法人竹早学園　つつじがおか幼稚園の入園式・修了式への参列
　（３）　東京都一水会等の総会等への出席

【共益事業】

Ａ　運営の充実を図るための事業
　１　理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整
　２　諸記録の整理保管と財産の適正な管理

Ｂ　会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業
　１　総会の企画と実施・・・・・・・・・令和５年　６月　４日（日）　東京学芸大学講義棟S410教室
　２　新年祝賀会の企画と運営・・・・・令和６年　１月２１日（日）　東京ガーデンパレス
　３　能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費（正会員費、賛助会員費、終身会員費）納入の促進
　４　令和５年度管理職名簿の作成・配布　令和５年８月に学芸大学同窓会ホームページ上に掲載予定
　　（６月以降に管理職等名簿（仮ＰＤＦ）を、同窓会ホームページ上に掲載予定）
　５　支部活動への役員出席
　６　終身会員の勧誘及び支部別組織化
　７　広報誌「學藝」での活動の周知
　８　ホームページを活用し、同窓会活動を周知

Ｃ　支部活動活性化への支援事業
　１　支部研修会への講師派遣
　２　広報誌「學藝」での支部活動の紹介
　３　会員数に応じた支部活動費の給付　　（２００円×正会員費納入数）

令和５年度　収支予算書

令和５年　４月１日から
令和６年　３月31日まで

（単位：円）

科　目	公益事業	寄1	その他会計			事業計	法人会計	内部取引控除	合計
	小計		共益小計	収益事業	その他会計小計				
Ⅰ　一般正味財産増減の部									
1．経常増減の部									
（1）経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産賃貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	6,410,000	0	6,410,000
会費収入　正会員費	0	0	0	0	0	0	4,500,000	0	4,500,000
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,800,000	0	1,800,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	110,000	0	110,000
事業収益	2,302,000	0	0	0	0	2,302,000	0	0	2,302,000
出版頒布「獅子」	2,000,000	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
出版頒布「子獅子」	12,000	0	0	0	0	12,000	0	0	12,000
論文研修開催収入	90,000	0	0	0	0	90,000	0	0	90,000
面接研修開催収入	200,000	0	0		0	200,000	0	0	200,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0		0	0	0	0	0
雑収益	0	0	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	320	0	3,000,320
雑収益	0	0	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	320	0	3,000,320
経常収益計	2,302,000	0	3,000,000	0	3,000,000	5,302,000	6,410,320	0	11,712,320
（2）経常費用									
事業費	3,453,500	500,000	7,103,500	0	7,103,500	11,057,000		0	11,057,000
役員報酬	0	0	300,000	0	300,000	300,000		0	300,000
懇親会費	0	0	3,735,000	0	3,735,000	3,735,000		0	3,735,000
旅費交通費	142,500	0	324,500	0	324,500	467,000		0	467,000
会議費	55,000	0	123,000	0	123,000	178,000		0	178,000
諸謝金	740,000	0	260,000	0	260,000	1,000,000		0	1,000,000
印刷製本費	2,400,000	0	1,240,000	0	1,240,000	3,640,000		0	3,640,000
通信運搬費	26,500	0	250,000	0	250,000	276,500		0	276,500
サイト運営費	66,000	0	16,500	0	16,500	82,500		0	82,500
消耗品費	23,000	0	175,500	0	175,500	198,500		0	198,500
支払寄附金	0	500,000	0	0	0	500,000		0	500,000
調査研究費	0	0	30,000	0	30,000	30,000		0	30,000
渉外費	0	0	450,000	0	450,000	450,000		0	450,000
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	90,000		90,000	90,000		0	90,000
雑費	500	0	39,000	0	39,000	39,500		0	39,500
管理費							510,000	0	510,000
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							400,000	0	400,000
通信運搬費							0	0	0
消耗品費							10,000	0	10,000
印刷製本費							0	0	0
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							10,000	0	10,000
経常費用計	3,453,500	500,000	7,103,500	0	7,103,500	11,057,000	510,000	0	11,567,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,151,500	△ 500,000	△ 4,103,500	0	△ 4,103,500	△ 5,755,000	5,900,320	0	145,320
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,151,500	△ 500,000	△ 4,103,500	0	△ 4,103,500	△ 5,755,000	5,900,320	0	145,320
2．経常外増減の部	0		0		0	0	0	0	0
（1）経常外収益	0		0		0	0	0	0	0
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（2）経常外費用	0	0	0		0	0		0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和４年度　事業報告

【公益事業】

Ａ　研究・研修活動

１　研究活動

（１）　総会後の教育講演会

令和４年　６月　５日（日）１４：１５開会　東京学芸大学講義棟S ４１０教室

演　題　　『教育に身をおき４０年、そして今…』

講　師　：福田　晴一　先生　（特殊教育学科（言語障害児教育）卒業）

※YouTubeによる限定ライブ配信実施

（２）　広報誌「學藝」による研究校紹介

令和４年８月　第１４５号、令和４年１２月　第１４６号、令和５年３月　第１４７号に

研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載

「スイッチ・オン」（「學藝」最終ページ）に必要な教育情報が得られるよう同窓会ホームページを案内

２　研修活動

（１）　教育管理職等幹部教員育成研修会の開催

①　校長・教育管理職（Ａ・Ｂ選考）受験者の論文研修会

・５月　８日（日）9:00 ～ 12:00　　＜江東区立東陽小＞　　受講者　１７名

・６月１２日（日）9:00 ～ 12:00　　＜江東区立東陽小＞　　受講者　２０名

②　主任教諭選考受験者の論文研修会

・５月８日（日）9:00 ～ 12:00　　＜江東区立東陽小＞　受講者　１３名

③　面接研修会　（校長及びＡ・Ｂ選考一次合格者対象）

・９月１１日（日）9:00 ～ 15:00　　＜江東区立東陽小＞　受講者　３２名

Ｂ　出版活動

１　管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第４４集の改訂発行・頒布

令和５年３月　各支部へ配送１０００部

２　若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈

令和４年１２月学大キャリア支援課に寄贈５５０部

（東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用）

Ｃ　ホームページ運営

「一般社団法人　東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

D　関係団体との連携事業

1　国立大学法人東京学芸大学との連携

（1）　卒業式への理事長参列

（2）　学生後援会への資金援助（東京学芸大学基金として援助）

（3）「教職実践演習」への講師派遣

（4）「教師」の魅力発信プロジェクト第２弾への援助

2　「辟雍会」との連携

（1）　副会長、理事への就任

（2）　理事会への出席

（3）　ホームカミングデーへの参加

3　その他関係団体との連携

（1）　学校法人竹早学園　竹早教員保育士養成所の卒業式への参列

（2）　学校法人竹早学園　つつじがおか幼稚園の入園式・修了式への参列

（3）　東京都一水会等の総会等への出席

【共益事業】

A　運営の充実を図るための事業

1　理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整

2　諸記録の整理保管と財産の適正な管理

B　会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業

1　総会の企画と実施・・・・・・・・令和４年６月　５日（日）　東京学芸大学講義棟S410教室

2　新年祝賀会の企画と運営・・・・・令和５年１月２２日（日）　東京ガーデンパレス

3　能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費（正会員費、賛助会員費、終身会員費）納入の促進

4　令和４年度　管理職名簿の作成・配布　　令和４年８月に学芸大学同窓会ホームページ上に掲載

（６月１０日に管理職等名簿（仮ＰＤＦ）を、同窓会ホームページ上に掲載）

5　支部活動への役員出席

6　終身会員の勧誘及び支部別組織化

7　広報誌「學藝」での活動の周知

8　ホームページを活用し、同窓会活動を周知

C　支部活動活性化への支援事業

1　支部研修会への講師派遣

2　広報誌「學藝」での支部活動の紹介

3　会員数に応じた支部活動費の給付　　（２００円×正会員費納入数）

令和４年度　収支決算書

令和４年　４月１日から
令和５年　３月31日まで

（単位：円）

科　目	継1	寄1	その他会計			事業計	法人会計	内部取引控除	合計
			共益事業	収益事業	その他会計小計				
Ⅰ　一般正味財産増減の部									
１．経常増減の部									
（1）経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産賃貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	6,098,500	0	6,098,500
会費収入　正会員費	0	0	0	0	0	0	4,252,500	0	4,252,500
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,716,000	0	1,716,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	130,000	0	130,000
事業収益	2,376,300	0	0	0	0	2,376,300	0	0	2,376,300
出版頒布「獅子」	2,027,500	0	0	0	0	2,027,500	0	0	2,027,500
出版頒布「子獅子」	16,800	0	0	0	0	16,800	0	0	16,800
論文研修開催収入	199,000	0	0	0	0	199,000	0	0	199,000
面接研修開催収入	133,000	0	0		0	133,000	0	0	133,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0		0	0	0	0	0
雑収益	0	0	361,062	0	361,062	361,062	331	0	361,393
雑収益	0	0	361,062	0	361,062	361,062	331	0	361,393
経常収益計	2,376,300	0	361,062	0	361,062	2,737,362	6,098,831	0	8,836,193
（2）経常費用									
事業費	2,781,346	100,220	2,985,698	0	2,985,698	5,867,264		0	5,867,264
役員報酬	0	0	0	0	0	0		0	0
懇親会費	0	0	1,078,035	0	1,078,035	1,078,035		0	1,078,035
旅費交通費	127,500	0	290,000	0	290,000	417,500		0	417,500
会議費	61,134	0	424,237	0	424,237	485,371		0	485,371
諸謝金	675,000	0	104,795	0	104,795	779,795		0	779,795
印刷製本費	1,630,852	0	400,000	0	400,000	2,030,852		0	2,030,852
通信運搬費	6,730	0	118,813	0	118,813	125,543		0	125,543
サイト運営費	261,800	0	0	0	0	261,800		0	261,800
消耗品費	0	0	352,768	0	352,768	352,768		0	352,768
支払寄附金	0	100,220	0	0	0	100,220		0	100,220
調査研究費	0	0	0	0	0	0		0	0
渉外費	0	0	6,000	0	6,000	6,000		0	6,000
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	88,000		88,000	88,000		0	88,000
雑費	18,330	0	53,050	0	53,050	71,380		0	71,380
管理費							435,295	0	435,295
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							318,300	0	318,300
通信運搬費							0	0	0
消耗品費							370	0	370
印刷製本費							3,330	0	3,330
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							23,295	0	23,295
経常費用計	2,781,346	100,220	2,985,698	0	2,985,698	5,867,264	435,295	0	6,302,559
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 405,046	△ 100,220	△ 2,624,636	0	△ 2,624,636	△ 3,129,902	5,663,536	0	2,533,634
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 405,046	△ 100,220	△ 2,624,636	0	△ 2,624,636	△ 3,129,902	5,663,536	0	2,533,634
２．経常外増減の部	0		0		0	0	0	0	0
（1）経常外収益	0		0		0	0	0	0	0
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（2）経常外費用	0	0	0		0	0		0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ　当期一般正味財産増減額									2,533,634
一般正味財産期首残高									47,976,180
一般正味財産期末残高									50,509,814

令和５年度　理事・部員・監事等名簿

令和５年７月現在

１　理　事

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
1	理事長	森　富子	51	A－理科	武蔵野大学	042-468-3290	042-468-3207
2	副理事長	稲葉孝之	56	A－保健体育			
3	副理事長	茅原直樹	58	B－国語	江戸川区立二之江中	3686-2281	3686-2283
4	副理事長	渡辺裕之	59	M－国語	武蔵野大学	042-468-3290	042-468-3207
5	副理事長	貝原俊明	60	A－保健体育	町田市立南第四小	042-796-1326	042-795-8759
6	副理事長	小川　優	59	A－学校教育	中央区立阪本小	3666-0044	3668-2366
7	総務部長	青山直志	H1	A－学校教育	練馬区立石神井西小	3929-0022	3929-9050
8	同副部長	織茂直樹	62	A－社会	東村山市立秋津東小	042-391-8191	042-397-5411
9	同副部長	内木　勉	62	A－国語	練馬区立光が丘春の風小	3976-5861	5383-3592
10	同副部長	佐野　篤	H1	A－学校教育	杉並区立桃井第五小	3390-3188	3390-0229
11	同副部長	山崎高志	H5	C－特殊教育	港区立本村小	3473-1462	3443-8535
12	会計部長	關口泰正	H8	A－学校教育	北区立滝野川第三小	3910-7812	5567-4523
13	同副部長	西澤尚子	62	E－幼稚園	北区立さくらだこども園	3914-8486	3914-8486
14	研修部長	清水　淳	63	A－保健体育	町田市立小山田南小	042-797-4541	042-797-1845
15	同副部長	西田　香	63	A－理科	世田谷区立桜小	3420-5382	3420-5626
16	同副部長	土田　昇	63	A－社会	町田市立小山小	042-797-2733	042-797-0759
17	調査部長	藤山由仁	H11	A－社会	中央区立月島第一小	3531-7285	3531-2207
18	同副部長	西谷秀幸	H3	A－社会	板橋区立成増ケ丘小	3930-2070	5998-4092
19	広報部長	加納一好	59	A－社会	渋谷区立幡代小	3370-2482	3370-2366
20	同副部長	原沢伸一	62	A－数学	台東区立平成小	3831-1530	3839-5154

２　部　員

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
1	総務部員	和田万希子	62	E－幼稚園	台東区立石浜橋場こども園	3876-0049	3871-9521
2	総務部員	石井正広	H1	A－社会	新宿区立四谷小	5369-3776	3341-4343
3	総務部員	桐敷芳子	61	B－美術	足立区立千寿第八小	3888-7826	3888-7827
4	総務部員	熊倉　勝	63	A－数学	文京区立明化小	3942-1493	3944-6713
5	総務部員	早川修一	57	D－音楽	サンチャゴ日本人学校		
6	総務部員	宮入祥郎	63	B－社会	北区立神谷中	3902-2461	3902-2570
7	会計部員	田村秀子	57	E－幼稚園	文京区立第一幼稚園	3811-0072	5689-4520
8	会計部員	青山伸子	H1	E－幼稚園	港区立港南幼稚園	3471-7347	5796-0566
9	会計部員	傳田　学	H8	A－数学	北区立梅木小	3900-3875	3907-9389
10	会計部員	中西　賢	H4	A－国語	文京区立礫川小	3823-7004	5689-4546
11	会計部員	佐藤　恵	H4	E－幼稚園	中央区立明石幼稚園	3541-9522	3541-9524
12	会計部員	飯川浩二	H5	A－社会	江東区立数矢小	3462-0477	3462-5789
13	会計部員	望月　潔	H1	A－学校教育	江東区立東雲小	3529-1452	3528-1768
14	研修部員	柿崎洋一	H1	A－社会	国分寺市立第七小	042-322-0047	042-325-4915
15	研修部員	伊藤　進	61	A－理科	葛飾区立花の木小	3609-3333	5699-1372
16	研修部員	大橋美都子	62	E－幼稚園	港区立中之町幼稚園	3405-7245	3405-7619
17	研修部員	井口美由紀	63	A－国語	新宿区立市谷小	03-3266-1603	03-3266-8078
18	研修部員	薄井智美	62	A－国語	町田市立町田第六小	042-722-3659	042-721-4730
19	研修部員	髙橋俊之	61	A－社会	中野区立桃花小	3381-7251	3381-7252
20	研修部員	丸　節子	60	A－美術	町田市教育センター	042-793-2481	042-791-0359
21	研修部員	髙野康弘	H3	A－保健体育	板橋区立志村第二小	3965-4866	3966-9012
22	研修部員	佐藤友信	H1	A－社会	江東区立東陽小	3644-0003	5690-4013
23	研修部員	加瀬幸司	H2	A－数学	足立区立中川北小	3620-3831	3620-3832
24	研修部員	田中薫子	62	A－理科	板橋区立金沢小	3962-2361	5375-5771
25	研修部員	大塚寿江	63	A－学校教育	江東区立川南小	3647-0675	
26	研修部員	木下健太郎	H12	A－社会	大田区教育委員会（休部）		

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
27	研修部員	増嶋広曜	H9	A－保健体育	台東区立谷中小	3828-9218	
28	研修部員	伊藤秀一	62	A－理科	江戸川区立一之江小	5662-2583	
29	研修部員	磯　茂子	63	A－社会	板橋区立蓮根第二小	3967-2282	
30	研修部員	冨田和己	H8	B－社会	板橋区立板橋第十小	3956-8110	
31	研修部員	石原　淳	H4	M－社会	北区立王子第三小	3907-2770	3907-0247
32	広報部員	米田典子	62	A－理科	練馬区立仲町小	3932-5369	5920-0332
33	広報部員	荻久保剛正	H6	A－数学	板橋区立板橋第一小	3961-0100	5375-5760
34	広報部員	入倉　勝	H5	A－社会	杉並区立永福小	3322-7391	3322-9251
35	広報部員	安藤良介	H4	A－理科	台東区立石浜小	3875-0033	3871-9513

３　監　事

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
1	監　事	早坂ひとみ	54	A－国語	江東区教育委員会	3467-9170	5890-6911
2	監　事	伊藤　隆	52	A－保健体育	蔵前幼稚園	3851-0040	3861-0013
3	監　事	葛谷裕治	56	A－数学	五反野幼稚園	3889-7621	3889-7621
4	監　事	石川加子	55	A－家庭科			
5	監　事	篠原敦子	56	A－家庭科	東京都教職員研修センター	5802-2071	5802-2080

４　顧　問

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
1	顧　問	國分　充			東京学芸大学（学長）	042-329-7100	042-329-7129
2	顧　問	秋山育也	30	甲－社会			
3	顧　問	佐藤倫則	35	乙－保健体育			
4	顧　問	安藤駿英	37	甲－教育・心理			
5	顧　問	吉野尚也	37	甲－保健体育	竹早学園理事長	3577-5973	
6	顧　問	加藤正克	44	A－保健体育	台東ことぶきこども園	3841-4719	3841-4602
7	顧　問	塩澤雄一	49	A－学校教育	葛飾区立総合教育センター	5668-7607	5668-7607
8	顧　問	齊藤光一	48	A－理科	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
9	顧　問	髙橋武郎	50	A－社会	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
10	顧　問	和田利次	53	A－数学			

５　参　与

	役　職	氏　名	卒	専攻類科	勤　務　先	勤務先電話	勤務先FAX
1	参　与	柳下昭夫	23Ⅱ	（第二師範）	元撫子会　幹事長		
2	参　与	岡村幸夫	25Ⅲ	（第三師範）	元大泉会　代表		
3	参　与	溝江　力	26	乙－理科			
4	参　与	森　正康	29	甲－美術			
5	参　与	高橋　毅	36	甲－保健体育			
6	参　与	奥山英男	34	甲－社会			
7	参　与	宮田澄江	37	甲－国語			
8	参　与	岩谷榮子	38	甲－数学			
9	参　与	竹内道義	38	甲－保健体育			
10	参　与	原　妃裟子	41	甲－教育心理			
11	参　与	堀木邦男	43	B－保健体育			
12	参　与	足立善朗	44	B－社会			
13	参　与	佐治恒孝	44	D－保健体育			
14	参　与	市川雅美	47	A－国語			
15	参　与	島　秀夫	47	A－数学			
16	参　与	伊藤　隆	52	A－保健体育	蔵前幼稚園	3851-0040	3861-0013
17	参　与	櫻井　茂	51	A－学校教育			
18	参　与	柳戸誉彦			竹早学園		
19	参　与	臼木信子	45	A－保健体育	日本赤十字社東京都支部	5273-6741	
20	参　与	酒井晴夫	46	B－産業技術			

令和５年度　支部長名簿

令和５年７月現在

NO	支部名	現任校名	支部長名	NO	支部名	現任校名	支部長名
1	千代田	麹町小	井田　孝	33	小金井	本町小	佐藤　歩
2	中央	久松幼	川越裕子	34	小平	小平第十三小	山倉　尚
3	港	白金の丘中	三浦和志	35	日野	仲田小	山本剛秀
4	新宿	落合第三小	清水　仁	36	東村山	八坂小	西田智男
5	文京	明化小	熊倉　勝	37	国分寺	第八小	矢島英明
6	台東	金竜幼	川﨑暁子	38	国立	国立第二小	内田辰彦
7	墨田	隅田小	浮津あゆみ	39	福生	福生第四小	阿部憲一
8	江東	浅間竪川小	葛西利昭	40	狛江	緑野小	亀田親子
9	品川	三木小	白倉直明	41	東大和	第九小	溝口佳江
10	目黒	鷹番小	板木孝悦	42	清瀬	芝山小	寺井俊敬
11	大田	入新井第四小	窪寺雄一郎	43	東久留米	南町小	永瀬功二
12	世田谷	中丸小	橋口直美	44	武蔵村山	第十小	中村清敬
13	渋谷	富谷小	石川亜由美	45	多摩	北諏訪小	岡　芳弘
14	中野	ひがしなかの幼	宮本実利	46	稲城	稲城第四小	髙橋裕之
15	杉並	四宮小	浮ケ谷優美	47	羽村	羽村第一中	三浦利信
16	豊島	巣鴨小	北澤弘幸	48	あきる野	草花小	芝田智昭
17	北	王子第三小	石原　淳	49	西東京	東伏見小	中嶋　太
18	荒川	第七峡田小	髙田　大	50	瑞穂	瑞穂第二小	小川ひろみ
19	板橋	北野小	中川久亨	51	奥多摩	氷川小	野尻迅人
20	練馬	大泉第三小	風見由起夫	52	日の出	本宿小	舟崎照剛
21	足立	花畑小	大塚信明	53	檜原	檜原小	下川耕史
22	葛飾	南奥戸小	石田栄司	54	大島	つつじ小	稲葉真一郎
23	江戸川	松江小	木村紀朗	55	新島	新島小	荒木憲秀
24	八王子	松木小	河村真奈美	56	三宅	御蔵島小中	広瀬京子
25	立川	第四小	浅尾　文	57	八丈･青ヶ島	三根小	川畑伊豆海
26	武蔵野	関前南小	鈴木健太郎	58	小笠原	小笠原中	武田　悠
27	三鷹	第四小	佐藤勇人	59	学芸大学	附属小金井小	塚本博則
28	青梅	第五小	刀禰浩子	60	高等学校	日野高	髙取克明
29	府中	府中第三小	関　修一	61	特別支援	調布特別支援	原田　勝
30	昭島	武蔵野小	大河原　博	62	都庁	教育庁指導部 義務教育指導課	富永大優
31	調布	北ノ台小	野口直也	63	都教セ	企画部企画課	高月　洋
32	町田	町田第六小	薄井智美				

令和５年度　東京学芸大学　“附属学校公開研究会・研究発表会”

地区	学校園	名称	開催日
世田谷	附属世田谷小学校	「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程の創造（文科省研究開発指定校５年次最終年度）	令和５年　６月１７日（土）
	附属世田谷中学校	令和5年度公開授業研究会（各教科・プロジェクトチームでの取り組みについて）	令和５年　６月１７日（土）
	附属高等学校	第２２回公開教育研究大会	令和５年１１月２５日（土）
小金井	附属幼稚園(小金井園舎)	研究協議会	令和５年　６月２３日（金）
	附属小金井小学校	KOGANEI授業セミナー	令和６年　２月　３日（土）
	附属小金井中学校	令和５年度公開授業研究会	令和５年１１月１７日（金）
大泉	附属大泉小学校	令和５年度研究発表会	令和６年　１月２７日（土）
	附属国際中等教育学校	授業研究会	令和５年１１月２２日（水）
竹早	附属幼稚園（竹早園舎）	2023年度公開研究会「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」	令和６年　１月２０日（土）
	附属竹早小学校		
	附属竹早中学校		
東久留米	附属特別支援学校	令和５年度研究協議会	令和６年　１月２６日（金）

東京学芸大学の各附属学校・園は、重要な業務のひとつとして、大学との連携のもとで教育に関する先端的、かつ実践的な研究を推進しています。附属の教員は個人的な研究に携わるとともに、公開発表を予定したそれぞれの学校・園ぐるみの共同研究に携わり、日本の教育の発展を力強く牽引しています。本年度の各附属学校・園の公開研究会・研究発表会等は、上記のとおり予定されています。さらに詳しい情報をご覧になりたい方は、当該校のホームページをご覧ください。

各附属学校の公開研究会・研究発表会の概要

【附属世田谷小学校】
研究主題:「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程の創造（文部科学省研究開発指定校５年次 最終年度)「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程のために、Laboratory（探究)、Home（異年齢集団)、Class（教科）の３領域を構想し実施して２年目になります

【附属世田谷中学校】
研究主題：「情報活用能力を育むモデル単元の開発 －資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して－」情報活用能力の育成を着眼点とした研究に取り組んでいます。副題にもあるように、本校の特徴と研究全体の目標を受け、各教科で育まれる資質・能力を土台としたうえで教科横断の取り組みを検討しています。

【附属高等学校】
研究主題:「生徒Agencyを育むカリキュラム・マネジメント⑴ －探究活動を軸としたカリキュラムづくり－」本校では，これまで「指導と評価の一体化」や「観点別学習状況の評価」など，評価に焦点をあてて，実践研究を進めてきました。これらを踏まえ，今年度より「Agency」というキーワードを核にしながら，授業改善に取り組みたいと思います。

【附属幼稚園（小金井園舎)】
研究主題：「幼児教育を語る・伝える保育者」今年度は「幼児教育を語る・伝える保育者」を新たな研究テーマとし、経験年数や立場の異なる保育者・教師同士が気軽に互いの保育感や幼児の姿の読み取りなどを伝え合う関係性を育むことで、保育の質の向上を図り、効果的な伝え方を考えていきたいと思います。

【附属小金井小学校】
前研究テーマ「『こえる学びの拡張』－子供が他者と「紡ぐ・解す」関わりを通して－」の成果と課題を見出し、6年にわたる「こえる学び」の実践研究をまとめました。今年度は研究テーマを新たに掲げ、３年次研究の１年目としてスタートする予定でいます。

【附属小金井中学校】
一昨年度まで、拡張する学び、真正な学びといった、生徒の学びそのものに注目した研究を行ってきました。今年度は、その分科会の取り組みをもとに、教科での研究を進めていきます。時期も通年として秋季以外での発表も検討しています。詳細は、本校ホームページをご覧ください。

【附属大泉小学校】
研究主題「グローバル社会の中で希望をもち伸びゆく子どもの育成 ～子どもが概念的に学びをつなぐ探究プログラムの実践～」令和5年度は子どもたちが「教科をこえて」概念的に学びをつなぎ、自分で考えをつくり出していく姿を目指して研究を進めていきます。

【附属国際中等教育学校】
研究主題：「探究の問いが育む概念的理解～ＩＢの趣旨を活かした授業開発とその普及」今年度は授業研究会の年です。教員の希望をベースにした研究グループが設定されています。教科グループだけでなく、同一学年の授業を担当する異教科の教員で構成された学年グループや、本校独自の国際教養グループなどを設定して、授業研究を進めています。

【附属幼稚園（竹早園舎）　附属竹早小学校　　附属竹早中学校】
研究主題：「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」本年度は未来を切り拓く子どもの主体性及びそれに関わる力を育むことを目指した実践研究です。共に学びあうことが子どもの主体性を活かすことにつながっていく姿を研究成果として発表します。

【附属特別支援学校】
研究主題：「障害発達を支える言語コミュニケーションの支援：理論と実践をつなぐ言語活動の充実」本研究では、新しい時代に求められている能力のひとつである言語コミュニケーション能力に着目し、知的障害児にとってのことばの役割を考えながら、日々の教育活動の中で言語活動を充実させ、知的障害児の生涯発達を支える言語コミュニケーション能力を育むことを目的としています。

令和五年度　定期総会

総務部長　**青山　直志**

令和五年六月四日（日）、東京学芸大学講義棟Ｓ４１０教室で会場参集とライブ映像配信のハイブリッド型で定期総会を行いました。この形での総会は三年目となります。

今年度は学大同窓生である東京学芸大学副学長、濱田豊彦先生のご出席をいただきました。会場は八名の支部長の皆様はじめ六十二名が参会しました。開会直前にライブ映像配信のトラブルが発生し、急遽ＵＲＬを変更することになり、会員の皆様には大変なご迷惑をお掛けしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、今回の記念講演は東京学芸大学准教授、小林晋平先生にお願いしました。昨年十一月、本会の全国組織、辟雍会のホームカミングデーで小林先生がご講演され、その圧倒的なパワーに我々本部役員が惚れ込み、本会の記念講演でも是非、ということになったのです。『学校教育における学際的な学びの実現へ向けて～「うけとめる力」を育むために～』と題したそのご講演は前職の群馬高専で学生から六年連続ベストティーチャーに選ばれた片鱗を遺憾なく発揮されました。当日ご覧いただけなかった方は後記のＱＲコードからご視聴ください。必見です！

会費納入のお願い

会計部長　**關口　泰正**

各支部長先生をはじめ、会員の皆様には、毎年会費納入に御協力をいただき、ありがとうございます。昨年度は、二千八百三十五名の正会員の皆様に会費を納入いただきました。管理職の皆様にはさらに賛助会員費をまた終身会員の皆様にも会費を納入いただきました。ありがとうございました。

会計部では皆様から納入いただいた会費を同窓会の各部（総務部・研修部・調査部・広報部）が円滑な運営に役立てられるよう、金銭面での管理の徹底を図って参ります。

まだ予断を許さない状況ではありますが、東京学芸大学同窓会が「一般社団法人」として公益に資する活動が充実するよう、会費の有効活用に向けて公正な会計処理を行って参ります。

今年度の予算編成、昨年度の決算につきましては、六月四日の総会でご承認いただき、その内容は、本号にも記載されておりますのでご確認いただければと思います。

支部長先生を通じて「会費納入のお願い」を既に各支部にご送付させていただいております。ご多用のことと存じますが、会計担当と連絡をとっていただき、九月末日までの会費納入にご協力いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

研修部諸活動へのご協力のお願い

研修部長　**清水　淳**

本年度も、会員の方々の自己研鑽の一助となるべく、研修部員一同、力を尽くしてまいります。同窓会の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

研修会は「獅子」の表紙裏に掲載されているとおり開催しております。ＱＲコードにてお申込みください。

◆論文研修会報告

校園長選考、ＡＢ選考のための研修を実施いたしました。五月十四日は八名、六月十一日は九名の参加でした。

◆面接研修会の実施

九月十日・新宿区立市谷小学校にて開催いたします。昨年は約四十名の研修生が参集しました。今年度も同様の人数が予想されるため、研修部員の他、同窓の校長先生方の御協力をお願いいたします。御都合がつく方は、研修部員までお声かけをお願いいたします。

◆主任教諭選考論文研修会

令和六年二月三日・新宿区立市谷小学校にて開催いたします。研修会後の添削期間は一か月とし、添削回数は二回を上限として指導していきます。

◆研修テキスト

「獅子」「子獅子」の編集と配布を行っております。どちらもＡ４版でしまいやすく、内容も好評をいただいております。最新の国や都の教育課題についても記載され、管理職やこれから学校支えていこうとする方にとって必携の一冊と考えております。今年度も三月下旬を目途に、各支部の支部長校宛に配布させていただきます。

今年度の「管理職等名簿」の作成方法について

調査部長　**藤山　由仁**

今年度より調査部長を拝命いたしました中央区立月島第一小学校長の藤山でございます。名簿作成に当たっては、毎年、多くの会員の皆様の御協力をいただいております。

昨年度から、「管理職等名簿」は東京学芸大学同窓会のホームページ上に掲載いたしております。

六月九日から、初版にあたる「仮ＰＤＦ名簿」をホームページ上に掲載しております。これを各支部等で御確認していただいた上で、修正作業を行い「完成版ＰＤＦ名簿」を八月中に掲載する予定です。

各支部におかれましてはホームページ上の名簿内容を御確認の上、加除訂正が必要な場合は調査部長藤山まで、ファックス、メール等でお知らせください。方法の詳細はホームページ上の文書をご覧ください。

なお、管理職名簿は個人情報でありＩＤ、パスワードを設定し同窓会会員のみが閲覧できるようにしております。ＩＤ、パスワードは各支部長様にお伝えしております。また、終身会員の皆様にも各支部を通してその旨お伝えいただければ幸いです。終身会員の皆様は所属していた支部と連絡をお取りいただくようお願い申し上げます。

快調！新ホームページ

広報部長　**加納　一好**

広報部では年三回の「學藝」の発行とホームページの運営を行っています。

「學藝」は大学との連携を意識して編集しています。今号は附属学校の研究発表会をご案内しました。引き続きサークル等の活動紹介も載せてまいります。今後も現在の東京学芸大学のことや現役学生の活躍が少しでも分かるように紙面を工夫してまいります。お楽しみに。

ホームページも昨年度から大きく変わりました。事務局で直接アップできるようになったので即時性が増しました。支部長会の資料も会議に間に合うよう余裕をもって掲載しています。様々な情報を迅速に会員の皆様に提供することができます。研究発表会の案内も特集していきたいと思います。研究発表会の案内ができましたら、ぜひ広報部にお送りください。その他、掲載したいことがありましたら、遠慮なくお申し出ください。

発行が待ち遠しい「學藝」、毎日チェックしたくなるホームページを目指します。

今年度も、各支部、会員の皆様にはご協力いただくことが多々あります。どうぞよろしくお願いいたします。

【お知らせ】

副理事長の担当は次の通りです。

◎副理事長の担当支部

稲葉孝之副理事長

中野、杉並、練馬、昭島、町田、狛江、多摩、羽村、あきる野、奥多摩、学芸大（十一地区）

渡辺裕之副理事長

千代田、中央、大田、渋谷、足立、葛飾、府中、日野、東久留米、西東京、瑞穂、都庁（十二地区）

茅原直樹副理事長

豊島、北、荒川、江戸川、青梅、小平、東村山、国分寺、福生、清瀬、高等学校（十一地区）

貝原俊明副理事長

文京、台東、墨田、江東、品川、八王子、立川、三鷹、調布、国立、檜原、特別支援学校（十二地区）

小川　優副理事長

港、新宿、目黒、世田谷、板橋、武蔵野、小金井、東大和、武蔵村山、稲城、日の出、島嶼（十二地区）

◎副理事長の担当部

稲葉孝之副理事長・総務部
渡辺裕之副理事長・総務部・広報部
茅原直樹副理事長・会計部
貝原俊明副理事長・研修部
小川　優副理事長・調査部

◇　編集後記　◇

「學藝一四八号」は森理事長のあいさつに始まり、総会の報告、そして、東京学芸大学准教授、小林晋平先生の素晴らしいご講演をまとめましたが、ご講演の内容が濃く、四ページでまとめきれませんでした。後半は一四九号に掲載いたします。どうぞお楽しみに。YouTubeアーカイブがありますので、こちらで全編ご視聴いただけます。

「學藝一四九号」には研究発表の案内を載せます。ホームページにも載せたいので、同窓生の学校の研究発表の情報をどしどしお寄せください。皆で参加して研究会を盛り上げましょう。

（広報部長　加納一好）

総会・講演会

同窓会HP

学　藝　第一四八号
発行　令和五年八月
東京学芸大学同窓会理事長
森　富子
東京都文京区小石川四の一の二十
電話〇三(三八一一)七二五一(代)
印刷　日本ハイコム株式会社
東京都文京区関口一の十九の二
電話〇三（三二三五）四四四一

令和５年度　同窓会総会

会場入口

会場の様子

森理事長ご挨拶

濱田副学長ご挨拶

来賓紹介

理事・監事紹介